

歩行者と自転車の分離による走行空間の安全性、快適性等に関する効果検証のための社会実験結果

■社会実験の目的

- 歩行者と自転車の分離による走行空間の安全性、快適性等に関する効果検証を目的に路面標示による通行位置の明示

■実施区間

- 新居浜駅菊本線(球場通り:約530m)
- 新居浜駅菊本線(高専通り:約525m)

■実施時期

- 平成27年5月25日(月)～29日(金)

■付帯調査

- ビデオ調査(朝・夕ピーク時)
- 自転車利用者アンケート調査



社会実験実施状況

新居浜駅菊本線(球場通り)



誘導看板

新居浜駅菊本線(高専通り)

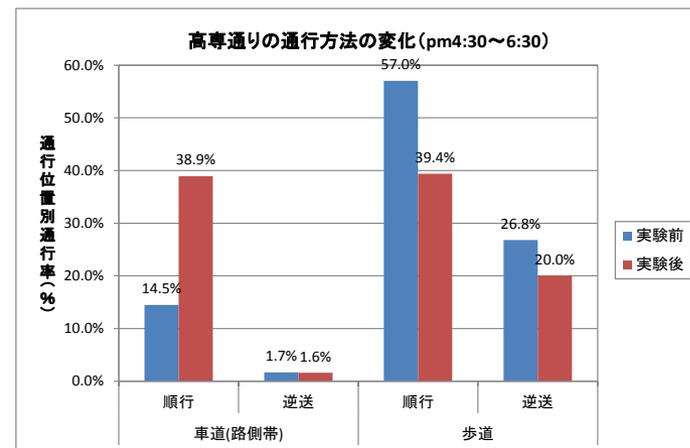
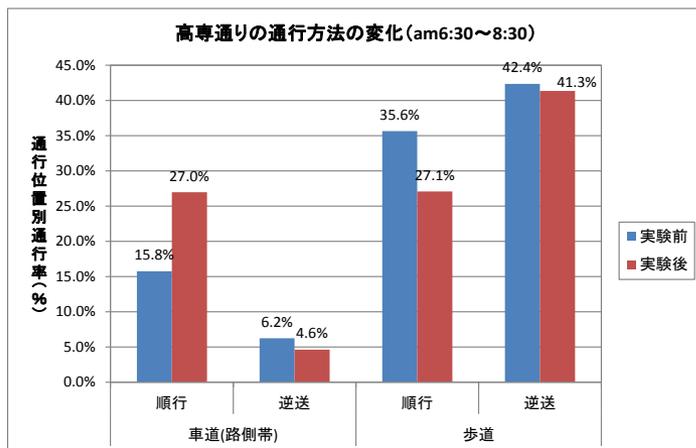
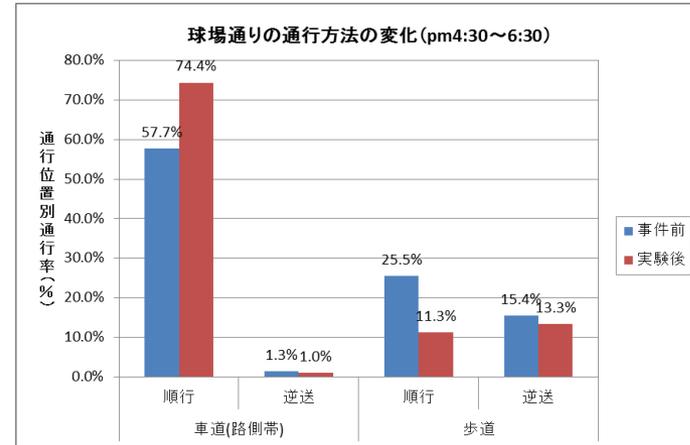
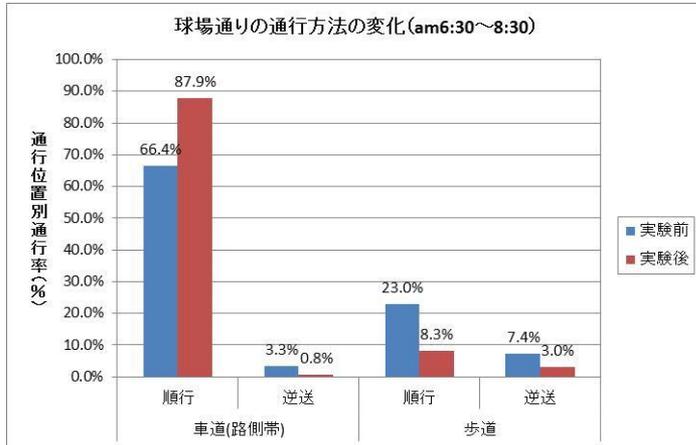


路面標示(ピクトグラム)



■ 自転車通行方法の変化(朝夕ピーク2時間ビデオ調査結果)

- 路面標示誘導により、車道左側(順行)の割合が増加
- 歩道通行量の割合がやや減少
- 車道・歩道の逆走の割合がやや減少



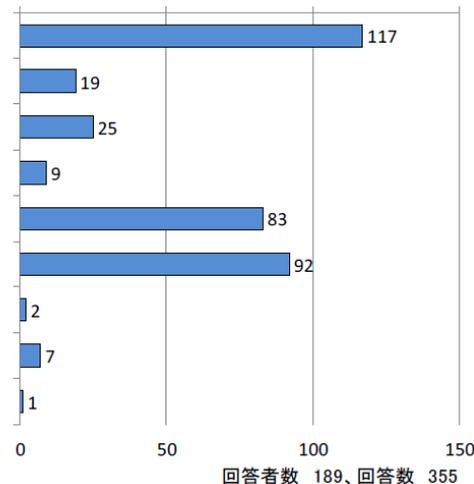
■ 自転車利用者意向調査結果(アンケート調査結果)

○自転車の快適な利用に向けては、「歩行者と自転車の空間分離」「空間の段差解消」「ルール・マナーの啓発」で要望が多くなっています。

○自転車道や自転車専用通行帯等の設置を優先すべき場所は、「駅や通勤・通学路」「自転車事故の多い道路」「国道等の主要幹線道路」の順で要望が多くなっています。

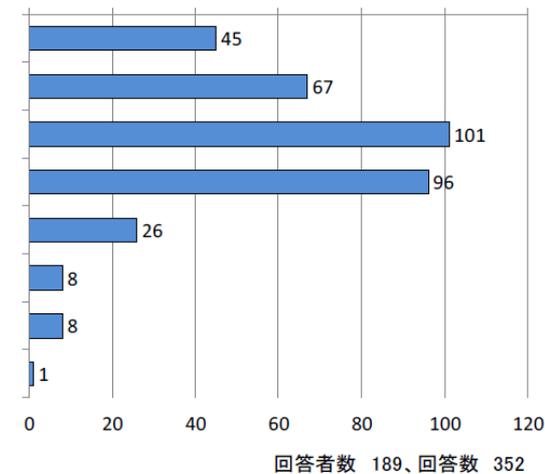
《歩行者の安全と自転車の快適な利用に向けて》

1. 歩行者と自転車空間の分離
(自転車道や自転車専用通行帯等の設置)
 2. 駅周辺などでの放置自転車対策
 3. 駅周辺などでの駐輪場整備
 4. レンタサイクルなどより自転車を利用しやすい仕組み
 5. 自転車交通ルールやマナーの啓発
 6. 道路や歩道などの段差解消
 7. 対策は必要ない
 8. その他
- 無回答



《自転車道や自転車専用通行帯等の設置を優先すべき場所》

1. 駅の周辺や商店街
 2. 国道などの主要幹線道路
 3. 駅と学校や勤務地を結ぶ道路
 4. 自転車事故の多い道路
 5. 市役所や図書館、病院などの
公共公益施設を結ぶ道路
 6. 大規模な河川沿いの場所
 7. その他
- 無回答



○自由意見では、車道通行に対するより安全な空間の確保とともに、
 ルールの遵守やマナーの向上が求められています。

■社会実験アンケート自由意見まとめ

意見数	意見要約
13	学生の並列通行や逆走などルールの遵守やマナーが問題。教育・指導が必要。
11	自転車の車道通行に危険を感じる。歩道活用を考えるべき。
11	車道通行は良いが、大型車通行に危険を感じる。車道の自転車通行帯を広く取るべき。
8	自転車道や自転車が安全に走れる道づくりを凶って欲しい。車の利用も減るように思う。
5	路肩の穴やヒビ、ゴミ、排水溝との隙間、水路の蓋の改善など、走りやすさへの取組みが必要。
4	路面標示の色を全面にするなど、わかりやすくして欲しい。
4	車道左側の自転車通行に対し植樹の枝などがあり通行しづらい。適正な維持管理が必要。
4	歩道と車道の段差の改善が必要。
3	車道に自転車通行帯を整備していく方向で、国道等にも自転車通行帯を広げるなど、連続した取組みが必要。
3	車道も車との接触が危険、歩道を通っても歩行者が危険、危険箇所での道幅の調整などよく考えて欲しい。
その他 各1	・歩道が狭く樹木が歩行や自転車通行の邪魔をしている。歩道も考えるべき。 ・ヘルメット着用や保険の適用を考えるべき。

■社会実験結果の考察

- 路面標示や看板による車道左側通行の誘導では、実験前後において、車道左側通行の遵守率の向上とともに、歩道通行や逆送率の改善が見られ、実施の効果が認められた。
- 一方、意向調査の自由意見に見られたように、法改正に伴う車道通行に対する理解は得られたものの、大型自動車通行への危険意識により、より安全な走行に向けた走行空間の拡充や植栽の維持管理等への改善要望が多く示された。
- また、走行マナーやルールに対する意見も高く、特に学生に対する走行教育・指導の重要性が示された。
- 以上のように、自転車の車道通行の誘導に対しては、案内誘導方策による評価や効果が検証されたが、交通条件や植栽・電柱等の道路付属物に対する配慮を含め、より安全・快適に走行できる空間構成へのきめ細かい対応が必要であることが明らかとなった。